



耕作放棄地が甦った！地域を再生する豊受自然農

花摘み& ハーブ酵素づくりイベントが6/18に。地域の観光資源化をめざす

日本豊受自然農株式会社(本社:静岡県函南町 代表:由井寅子)が、6/18(土)10時から伊豆の国市金谷地区の自社農場で農地再生記念イベントを開催。葎山金谷地区から、水田と花畑に生まれ変わった農場を一般公開。エキネシア(アメリカ先住民の間で健康維持に使われてきたバレンギク的一种)の花畑でハーブ摘み&酵素づくりを体験いただきます。



耕作放棄地を土地集約・開墾整備した、伊豆の国市・葎山金谷地区の水田



エキネシアのハーブは自社工場で製造される酵素・ハーブティ・化粧品などの材料となる

葎や雑草が茂っていた荒れた状態から、開墾・整備して再生した農地。現在は水田として稲作を行っているほか、稲が育ちにくい圃場ではハーブ栽培を行うことで有効活用に取り組んでいます。

「市から紹介されたこの地区を最初に見た時、あまりに荒地で開墾できるか不安だった。志のある若手たちのがんばりで、みごと圃場を再生することができました。最近とても嬉しかったのは、足掛け4年となる今年、日本に古くから生息していたモリアオガエルやカブトエビが田んぼに戻ってきたこと。彼らは環境がよいところを探しながら、戻る時期を待っているのだと感じました。無農薬を実践し環境が戻ったことが、生き物たちにも通じたのだ！と感動しました」と由井代表。「自分が子どもの頃に見ていたような、金谷の風景が戻ってきた。懐かしく、うれしい」と地元出身の新人社員・岩本くん。

就農者の高齢化などによる耕作放棄地問題は、伊豆の国市をはじめ全国的な行政課題となっています。「荒れた農地をそのままにすると、いずれは海外勢に買い占められるかもしれません。自給率を支える意味でも、日本の貴重な農地を古来の自然型農業で守り、再生させていきたい」とも語りました。これからも同地区の農地では無農薬での穀類生産とハーブ栽培を行い、いずれは観光資源に育てていく予定です。

体験イベントの様子は、同日に開催される「第14回日本の農業と食を考えるシンポジウム」でも生中継となり、全国に向けてストリーミング配信が行われます。▶ぜひ取材にお越しください。お問い合わせは東京事務所(03-5797-3371)まで。

“私たちについて”



安心安全、栄養価の高い作物は土壌から

農薬、除草剤、化学肥料は使いません。落ち葉、竹粉などに土壌菌をまぜた堆肥を独自に作り、農業を行っています。

種へのこだわり

雄性不稔F1種、遺伝子組換え種、ゲノム編集種など「不自然な種」は使わず土壌と地域にあった在来種・固定種による栽培を行っています。

六次化

オーガニック加工品(食品・化粧品)の開発・製造も自社で行っています。商品は直営ショップやオンラインで販売。「食べて健康になる食事」を自社レストランで提供しています。

農地所有適格法人日本豊受自然農株式会社

本社:静岡県田方郡函南町平井1741番地の61

URL:<https://www.toyouke.com>

◆本件についてのお問い合わせ先◆

東京事務所:03-5797-3371

mail:info@toyoyouke.com